

タッチケア技術の普及のための技術取得講座

三重地区社会福祉協議会 三重北校区支部
〒512-0906 三重県四日市市山之一色町 2203

助成事業の概要

「タッチケア」の講習会を、坂部が丘 1 丁目および坂部が丘 4 丁目の指導的な人を対象にそれぞれ月一回、計 30 回開催しました。主旨としては、24 年度時点よりさらに高いレベルの技術取得を目指してのものです。それぞれの受講者が自立してタッチケアを施術できる技術の到達レベルが目標でした。タッチケアは系統的にプログラムされたものですが、具体的な講習内容としてその中から背中と手のマッサージに絞り込んだ講習としました。

開催場所は各町の集会所を利用しました。

講師には、24 年度で実績があり、また顔見知りでもある同じ講師に依頼しました。

なお、講座を約半日のゆっくりとした開催としたので、中心的な養成対象者以外に、その時の集会所への来訪者に「タッチケアの受け手」になってもらい、体験を通じてタッチケアへの理解を深めてもらうとともに、受講者にとっては「実習」の場を提供することとなりました。

事業の成果

サロンで開催される新メニューに「タッチケア」が追加され、サロン活動にとって有意義なものとなりました。今後のサロン活動の活発化につながり、サロンへの新規参加者の増加を期待しています。

事業成果の象徴的なものとして、受講者がボランティアでのタッチケアの実践を始めたことが

上げられます。月一回程度、近隣の施設（デイサービス施設）に 5 人ほどで出向き、タッチケアを施すことを始めています。この動きは今のところ坂部が丘 1 丁目に限られていますが、高齢化率が 55% を越え孤立高齢者が多い 4 丁目への刺激要素となっています。孤立した高齢者や認知症の人への対応のひとつのツールとして、4 丁目の技術取得者にも期待しています。

また、間接的な成果として、4 丁目集会所の改装工事がおこなわれたことも上げられます。集会所は面積的に講習に十分でなかったため、この講習会を契機として四日市市に改装工事を要望して実現したものです。

「タッチケア」技術が坂部が丘に一定の地域定着をしたともいえ、万一の不測の事態（大震災や津波被害の避難所での生活）におけるメンタル面でのケアに寄与しうるものと考えています。の意味でこのタッチケア技術が地域に根ざしたことは地域の財産ともいえると考えます。

「タッチケア」の効果のひとつとして、「認知症で苦しむ家族の負担軽減効果」、「各家庭内での良好なコミュニケーションづくり」、「健康増進効果」などがあります。今後の展開の中でその面での成果も期待しています。

また、この講習に関係する有志でグループ「ひかりバルーン」が設立され、「三重県ボランティア基金」の助成を受け、三重北以外の市民を対象にした勉強会の開催をおこなっていくことになっています。これも間接的な成果といえます。

■ 成果の広報、公表

三重地区（三重北支部を含む 3 支部で構成）への年度末の支部報告の中で、成果の発表を行いません。

三重北支部社協の評議委員会（総会）の 25 年度活動報告の中でも、公表いたします。

■ 今後の展開

今年度、三重北社協支部では新たな高齢者支援を考える「高齢者支援検討委員会」（年四回開催）を立ち上げることにし、高齢化への対応の模索を始めます。長寿会や育成会や保育園の代表者や社協役員で構成されます。

その検討の中で、1 丁目の受講者を中心にすでに動き始めているボランティアグループをひとつの戦力として位置づけ、よりいっそう活用できる状況を一つの検討課題といたします。

また「事業の成果」の中でふれた、「ひかりバルーン」と「1 丁目グループ」との連携・協力をすすめ、この効果を三重北以外の四日市市民や「四日市看護医療大学」の学生に対して波及させていきたいと考えます。